

植民地朝鮮の予言と民衆宗教

パク ヘンソン
朴 海仙著 ▼46判・上製カバー・256頁・定価三、〇八〇円

2024年9月刊行



予言書『鄭鑑録』の基礎的考察と同書をモチーフに成立した民衆宗教の動向を分析し、様々な思想が絡み合った植民地近代の位相を描く。

【目次】

序章

- 問題の所在
- 先行研究の検討
- 本書の課題と構成

第一部 植民地朝鮮の終末思想

—近代の予言と『鄭鑑録』の誕生—

- 第一章 一九〇〇～一九一〇年代の予言と朝鮮の民衆
- はじめに
- 一九〇〇年代の民衆と予言
 - 一九一〇年代の民衆と予言
- おわりに

終章

- はじめに
- 真宗大谷派新都内布教所の開設
 - 金剛大道と同朋教会
- おわりに

第四章

植民地朝鮮の民衆宗教と日本仏教 —新都内の真宗同朋教会と金剛大道を中心に—

- はじめに
- 真宗大谷派新都内布教所の開設
 - 金剛大道と同朋教会
- おわりに
- 付録『新都内写真』
- 初出一覧／あとがき

第二章

規格化される予言 —植民権力と『鄭鑑録』公刊本の誕生—

- はじめに
- 一九二〇年代の『鄭鑑録』
 - 一九二〇年代の『鄭鑑録』公刊
- おわりに

◆著者略歴

朴 海仙(パク ヘンソン)

一九八七年生。二〇一二年韓国淑明女子大学校英文学科卒業。二〇一四年同大学校大学院日本文学専攻修士課程修了。二〇二〇年立命館大学大学院文学研究科日本文学専攻博士課程修了。博士(文学)。日本学術振興会特別研究員(DC2)、立命館大学文学研究科初任研究員を経て、現在は同大学専門研究員。

主な研究に「植民地朝鮮の新宗教と日本仏教—新都内の真宗同朋教会と金剛大道を中心に」(共著『東アジア 遭遇する知と日本—トランスナショナルな思想史の試み』文理閣、二〇一九年)、「植民地朝鮮と鄭鑑録『日本近代学術研究』59、二〇一九年)、「近代韓国新宗教における後天開闢思想—思想的起源と東学の後天開闢に関して」(『東アジアの思想と文化』10、二〇一九年)などがある。

第二部

植民地朝鮮における民衆宗教の展開

—第三章 植民地朝鮮における「類似宗教」の課題—

- はじめに
- 「類似宗教」普天教の誕生
 - 一九二〇年代の普天教の活動
 - 強制解散とその前後
- おわりに

注文書	
(書店印)	
様	冊
ご担当	
法藏館	定価三、〇八〇円
朴 海仙著	1)住所
植民地朝鮮の予言と民衆宗教	お電話
ISBN:978-4-8318-5586-2 C1021	お名前

ご注文はFAX:075-371-0458

法藏館

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入
TEL 075-343-0458 FAX 075-371-0458
http://www.hozokan.co.jp info@hozokan.co.jp

歴史